

“鍵盤の魔術師”が紡ぎだす極上の音色をベガ・ホールで シブリアン・カツァリス ピアノリサイタル

（公財）宝塚市文化財団では、2019年2月17日（日）に宝塚ベガ・ホールにおいて、フランスのピアニストで“鍵盤の魔術師”と呼ばれるシブリアン・カツァリスによるリサイタルを開催します。

カツァリス氏の奏でる音色は聴く人の心を掴んで離さず、その繊細な指の運びに人々は魅了されます。「ピアノでこんな表現ができるなんて」、そんなことを思わせる同氏は、まさに“鍵盤の魔術師”という呼び名にふさわしいピアニストです。2013年11月にベガ・ホールで同氏のリサイタルを開催した際にはチケットは完売、アンケートでは「大満足です。遠路来たかいがありました。」「カツァリスさんの奏でる音色にうっとりしました。」などの感想をいただきました。

今回の公演は、お客様はもちろん、担当者も熱望しての再演です。ヨーロッパの教会のような雰囲気を持ち、響きが良いと演奏家から絶賛されるベガ・ホールで、その独自の世界観と圧倒的なテクニックでファンを魅了し続ける感動の演奏をお楽しみください。

貴媒体におかれましても、この公演を取り上げていただければ幸いです。



©Carole Bellaïche

- 1 日時 2019年2月17日（日） 14:00開演（13:30開場）
- 2 会場 宝塚ベガ・ホール（阪急宝塚線清荒神駅下車すぐ。宝塚市清荒神1-2-18）
- 3 入場料 一般前売4,500円（当日5,000円）
U39チケット2,250円（20枚限定。ネットのみで受付、要U39会員登録）【全席指定】
- 4 曲目 ラヴェル：亡き王女のためのパヴァーヌ
プーランク：フランス組曲より第6番シシリエンヌ
ビゼー：歌劇「カルメン」（ビゼーとカツァリスの編曲による）ほか
※曲目は変更になる可能性があります。
- 5 主催 （公財）宝塚市文化財団
- 6 その他 託児サービスがあります。
（1人1,000円、2月9日までに宝塚市文化財団 0797-85-8844 にお申し込みください。）
- 7 お問い合わせ ご紹介いただける場合は、下記担当にご連絡ください。
宝塚ベガ・ホール（0797-84-6192） 事業担当：四方・林

シブリアン・カツァリス

シブリアン・カツァリスは、1951年マルセイユ生まれのキプロス系フランス人ピアニスト兼作曲家である。幼少期を過ごしたカメルーンで、4歳からマリー＝ガブリエル・ローワースにピアノを習い始めた。

パリ音楽院卒。ピアノをアリーネ・ヴァン・バレンツェンおよびモニーク・デ・ラ・ブルッコレリーに師事。ルネ・リロイおよびジャン・ヒュボーに室内楽を師事した。1977年、ブラティスラバでインターナショナル・ヤング・インタープリターズ・ロストラム・ユネスコ優勝、1974年ヴェルサイユでシフラ国際コンクール第一位受賞、1972年ベルギーのエリザベート王妃国際音楽コンクールでは唯一の西ヨーロッパ人受賞者となった。1970年パリでアルベール・ルーセル財団賞受賞、1972年アントワープでアレックス・デ・ヴリーズ財団賞受賞。

カツァリスは、ベルリン・フィルなど世界の著名なオーケストラや、レナード・バーンスタイン、クルト・マズア、チョン・ミョンフン、サイモン・ラトルなどの指揮者と共演。

1984年ドイツでベートーヴェン作曲／リスト編曲の「交響曲第九番」で「レコード・オブ・ザ・イヤー賞」を受賞したテルデックとの録音を始め、これまで、ソニー・クラシカル、EMI、ドイチェ・グラモフォン、BMG-RCA、デッカ、パヴァーヌなどと数多くの録音を行い、現在は自身のレーベル「PIANO21」で録音を行っている。

1992年、日本のNHKは、カツァリスと共同で、フレデリック・ショパンについてカツァリスによるマスタークラスと演奏を含む13回シリーズの番組を制作。1999年10月17日には、フレデリック・ショパン没後150周年当日にカーネギー・ホールで開催された全曲ショパンプログラムによるカツァリスのリサイタルでは、ニューヨークの聴衆からスタンディング・オベーションが起こった。

また、ニューヨークのマネス音楽院、トロント大学、ザルツブルグ・モーツァルテウム、メキシコ芸術アカデミー、香港演芸学院、ハーグ王立音楽院、上海音楽院でマスタークラスを開催している。

カツァリスは1977年、ルクセンブルクのエヒテルナツハ国際音楽祭の芸術監督に任命された。同年に「カメルーン勲爵士」、「ユネスコ平和芸術家」、2000年にフランス政府より「芸術文学勲爵士」を贈られその功績を称えられている。また、2001年には「パリ市ヴェルメイユ・メダル」も授与された。